

近隣自治体と協調し景観資源づくりでまちの活性化を!!

さくま誠 便り

まこと 後援会

12月議会では観光施策質す

ただ

12月定例議会は11月30日～12月15日の日程で行われ、さくま議員は12月11日午後一時に登壇。三つの柱からなる大項目、八つの小項目について60分フルタイムを使い市側の考えをいただきました。

Q・観光振興策では一つの自治体での個別の観光施策による観光客の呼び込みには限界がある。近隣自治体と連携・協働して道北地域ならではの景観を活かし、広域連携によりまちの活性化をはかるべきではないか。また、名寄で飼われていない羊の飼育を推奨し近隣自治体が協調し、景観を資源として売り込んではどうか？

食肉センターのと畜を現行の牛だけではなく、豚・羊などにも拡大をはかり、雇用の拡大にも結び付けるべきではないか。

A・着地型観光を推進していく上では自治体や民間団体個々の取り組みでは限界があり、近隣自治体はもちろんのこと、広域で連携し、多様化する観光客のニーズに応えることなどが求められる。

2016年1月20日
名寄市西5南12
さくま誠 後援会
TEL 01654-3-9260
発行責任者
菅野 孝



地域内の魅力的な観光資源を有機的に結び付け、広域的に周遊できる観光ルートの開発などに努めてまいりたい。

羊は、有利販売が可能な販売先の確保が重要。また、中山間地や山裾の境界などにおける飼育により不耕作地化を防ぐことが可能となる一方で、牧柵の設置が負担となるなどの課題が生じる。以上のことなどを踏まえ、今後の畜産業として羊の飼育に



おける可能性について調査したい。

と畜種類の拡大は、違う種類の動物を同じ施設で扱うことから、衛生面での安全性の確立が重要になってくる。

と畜場の運営は指定管理により二三口畜産が担っていることから、今後の肉牛・乳牛による利用計画を踏まえ、と畜種類の拡大の必要性や課題について研究して参りたい。

さくま誠市政報告会・新春のついで
2月14日 18時～ 紅花・会費2千円

北の天文字焼きでの
積極的な行政支援を

Q「雪まつり」(2/13～15)と「北の天文字焼き」(2/13)が同時期に開催される。道北観光協会と連携し、「天」の火文字を結ぶ14の市町村への働きかけを行政としてもバックアップできないか？

A・北の天文字焼きについても冬の重要な観光資源として位置付けている。現在のとこ北の天文字焼き実行委員会と具体的な検討はされていないが、どのような協力と運営体制をすることにより、さらなるイベント効果を高めることができるかも含めて実行委員会と協議してまいりたい。

Q14の市町村を招待し、ブースを使っての特産品販売をしてはどうか？

A・他市町村も各々の地域で開催される冬のイベントに向けて準備が進められていることから、各市町村を招待しての特産品販売については、今年度からの実施は現段階では難しいと考えている。

しかし、今後の取り組みの可能性に向けて、協議していくことは必要である。

各実行委員会及び道北観光連盟等と協議して参りたい。

市政に対する要望・相談は、お気軽に「さくま誠」に！

快適で安全なまちづくりについて

高齢化社会の深度化に伴い快適で安全に暮らせるまちづくりを進めるためにさへま議員は、技能・判断の衰え等から重大事故につながっている高齢者の自動車運転免許の自主返納を促進するために「運転経歴証明書」の発行手数料の行政負担や、75歳以上の高齢者へのハイヤー料金、バス料金等の補助制度の創設をすべくと求めました。

また、聴覚障がい者が希望する場合、緊急通報システムを配備・設置するよう求めました。
加齢による自動車運転



免許返上者への支援制度創設を

Q・名寄警察署調べによる当市の自主免許返納者は、H24年31件、25年31件、26年47件、三年間で109件の申し出数との事。高齢ドライバーのひき起す事故は、全体の20.4%とも言われており、技能の衰えや、認知症等の発症からの事故撲滅を促進する観点から、自動車運転免許返納者への支援制度（運転経歴証明書代の行政負担）を整備して行く必要があるのでは？

A・本市における交通事故の中で、第一当事者として65歳以上の方が占める状況（名寄警察署管区内）は、H24年34件中9件で26.4%、H25年では37件中15件で40.5%、H26年では40件中18件で45%となっており、発生件数、高齢者の占める割合とも年々増加傾向にある。

運転免許証に代わる身分証明書として、住民基本台帳カードを無料で交付する「高齢者運転免許自主返納支援事業」に取り組んできた。これまで7年間の交付実績は本年12月1日現在で、131名の方に交付。ご提案頂いた支援制度、運転経歴証明書について、現在、住基カードに代わるマイナンバーカードを当面の間、申請により無料交付をしている。運転免許証同様写真が添付されており身分証明として活用いただけることから、マイナンバーカードのご利用をお願いしたい。

Q・75歳以上の高齢者への補助制度創設を

A・名寄市障がい者ハイヤー料金助成事業として、障がいのあるかたに対して、ハイヤー料金の基本料金を助成する事業を実施しており、平成27年度のハイヤー助成券対象者数は、現在804名。うち65歳以上の高齢者が615名で、助成対象者の75%を占めている。また、平成26年度の実績では対象者836人、使用枚数9526枚、助成事業費は514万4670円となっている。仮に、75歳以上の高齢者の方への対象を拡大すると、対象者数は、名寄市障がい者ハイヤー助成事業の5倍を超える4559人となる。財政面から考えても実施はかなり難しい。コミュニティバスについては、第二次総合計画策定のなかで、「公共交通機関による輸送サービスが必ずしも十分に提供されていない地域」において、要支援・要介護者、

自力での移動が困難な高齢者の方などの移動手段として「福祉有償運送」の導入なども検討してみたい。

Q・聴覚障がい者宅への緊急通報システム配備は
A・重度の聴覚障がい者で65歳以上の方は全体の約76%で、一人暮らしの方も全体の約28%おり、緊急通報システムの必要性が高い方々が多いと思われる。緊急時に迅速に対応するためには有用なもの。「聴覚障がい者用屋内信号装置」なども必要だと思われるため、いくつかの機器を組合せ備えることができればと考えている。

除雪予算を増やし排雪回数を増やすべき

Q・生活道路の排雪回数をシーズン1回のところをまずは、複数回に増やすよう除雪予算を次年度に向けて組み立ててはどうか。また、排雪順路は東西南北をシーズンごとに交互に行ってはどうか。
A・この間検討を行ってきたが、生活道路は排雪延長による委託契約で、一回としている。これを一回にすると予算面でも倍となり、人員配置、排雪作業ロスなども懸念される。また、排雪順路は作業効率の良い順路としているが、公平性の視点から、工程の見直しを行った時の費用対効果について調査・研究・分析を進めたい。
◇他の質問 ・市民との協働によるバス停周りの安全確保